

会 議 録

1 会議名

令和5年度 第10回春日区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

(1) 自主的審議事項（公開）

・春日山城跡の観光振興策について

(2) その他

3 開催日時

令和6年2月1日（木）午後6時30分から午後8時35分まで

4 開催場所

上越市市民プラザ 第1会議室

5 傍聴人の数

1人

6 非公開の理由

なし

7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

- ・委員：市川 優、太田一巳（会長）、岡本重孝、白濱昭博、田中裕子（副会長）、
谷 健一、藤田晴子、本多俊雄、松澤優作、丸山佳子、山田 孝、
吉田 実（副会長）、吉田義昭、渡邊康子、渡部忠行（欠席2名）
- ・魅力創造課：渡来課長、藤村副課長、市村係長、松井主任
- ・文化行政課：新保課長、佐藤副課長、草間主任学芸員
- ・事務局：中部まちづくりセンター 小林所長、井守副所長、渡邊係長、山崎主事

8 発言の内容（要旨）

【渡邊係長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【太田会長】

- ・挨拶

【渡邊係長】

- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第1項の規定により、会長が議長を務めることを報告

【太田会長】

- ・会議録の確認：渡邊委員に依頼

次第3議題「(1) 自主的審議事項」の「春日山城跡の観光振興策について」に入る。事務局の説明を求める。

【渡邊係長】

先日、上越市議会の「通年・広域観光推進特別委員会」で「上越市通年観光計画（案）」が示されたことは、委員もご承知のことと思う。前回の中間とりまとめの際に、地域協議会も計画の説明を聞きたいとの意見もあったことから、今回、計画案の内容と意見書の回答について、担当課から直接説明を受ける場を設けた。

【渡来課長】

- ・挨拶

【松井主任】

- ・資料No.2 及びNo.3 に基づき説明

【太田会長】

ただ今の説明について、質問、意見を求める。

【渡部委員】

意見書の「1 持続可能な観光振興に向けた資源の活用、人材の確保及びプロジェクトの発足」の回答で、資料No.2 の58頁に記載とあるが、具体的な内容がよく分からない。

【太田会長】

58頁の内容について、もう少し補足してほしい。

【渡来課長】

58頁の内容に関しては、いただいたご意見を踏まえながら、これからどのように進めていくか検討していく。

【太田会長】

まだ見えない部分も多いので、これから各方面と連携を取り、準備を進めていくということでよいか。

【渡来課長】

春日地域で、初めてというくらいの取組をこれから行う。実施の体制等を地域の皆さんとも相談しながら進めていきたいと考えている。

【渡部委員】

取組の期間などは報道で大体分かっているが、ベンチマークの 1.3 倍とは、どこから出てきた数字なのか教えてもらいたい。

【渡来課長】

- ・資料No.2 の 50 頁の表から、現状の集客人数に対して、目標の集客人数が 1.3 倍であると説明。

【藤村副課長】

令和元年の春日山地域のイベントを除く来訪者数は、おおむね 33 万人程度である。令和 12 年度末のベンチマークとして掲げている 1.3 倍という数字は、大体 10 万人増えた 43 万人ぐらいを想定している。この根拠は、資料No.2 の 5 頁に市の第 7 次総合計画で全体の観光入込数についてと通年観光計画の取組を踏まえての目標値を掲げていて、春日山、直江津、高田の 3 地域で、1.3 倍に上げることで目標が達成されることから設定した。先ほどの説明で、資料の赤い点線のところ、月 20 万人ぐらいを最終的な目標としているが、令和 12 年度までに 1.3 倍を達成して、新たなビジネスが生まれ始める状態を目指すとして掲げている。

【田中副会長】

意見書に早速ご回答いただき感謝する。私たちの意見がおおむね反映されていると思っている。ただ 1 点、観光振興課や魅力創造課の職員数が増えなければ、この取組が続かないと思う。市の推進体制を強化してほしい。くれぐれも、ハードはやったけれども、第三セクターを作って終わりということにならないよう、同じ思いで取組を続けていけるよう、市民もそうだが、お互いに努力していくことが大切だと思う。

【谷委員】

通年観光なので、各月でイベントが必要だが、今あるものを育てていくべきだ。観光イベントが集中していない時期を考える。今できることからやるのも大事だと思う。意見書の「5 春日山周辺ににぎわいをもたらす『春日山楽市楽座』等のイベントの実施」に対する回答が、「年間を通じたイベントの実施につきましては、ぜひ地域の皆様から主体となって取り組んでいただきたい」とある。こういうものは今やっていることをつなげていかないと、12 か月埋まらない。今どこでどんな活動が行われているのか、春日

地域を見直す必要がある。

「越後謙信きき酒マラソン」は、埋蔵文化財センターを発着点に春日山の本丸まで上がり、春日地区をぐるっと回る、まさにぴったりの事業で、上越商工会議所の青年部が開催してくれている。市も地域の人も、このイベントにもっと関心を持たないと育っていかない。全国から人を呼び込んで、楽しみながら行っている。事業を始めた当初は、お酒のイベントへの支援に難色を示すような話もあったが、マラソン後のきき酒を楽しみに、全国から 510 人来ている。春日山にぴったりの事業がこれから作らなくても既にある。それを育てることに目を向けていただきたい。

【太田会長】

レルヒ祭など、他にも地域ごとにイベントがあるので、春日山以外の地域とも連携していただきたい。

【渡部委員】

資料No.2 に、埋蔵文化財センター北側に土塁を造るスケジュールが記載されている。期間が遅れる可能性もあり、広報上越などで分かるよう、その都度知らせてほしい。

【太田会長】

春日山に関しては、春日区地域協議会にも報告をお願いしたい。

【渡来課長】

何よりも地域の皆さんとの合意形成が大事なので、これから段階を踏む中で、様々な節目でしっかりと説明させていただきたいと考えている。

【渡部委員】

楽市楽座は私が提案した。市は、民間が収益を上げることに消極的だと思う。個人や事業者のお金儲けに関して、場所貸しを渋る。楽市楽座は前向きに考えてほしい。

【渡来課長】

そうした声も踏まえて今後検討する。

【太田会長】

楽市楽座について、私も春日商工振興会に関わっており、コロナ前には、地域活動支援事業で「にぎわい市」等のイベントを春日謙信交流館で行ってきた。その中で、例えば1~2か月に1回、トラック市を行う企画もあったが、コロナ禍でなかなかできず、きっかけを失ってしまった。

春日区の地域でも定期的にイベントを自主的にできるような団体を作ることも考えて

いかなければいけない。そのために市と協議会の連携が必要だ。

【吉田副会長】

3期目の地域協議会では、春日山の名産品を作ろうということで、青芋を使ったかまぼこ作りを実行したが、軌道に乗らなかった。そこで4期目では、原点に立ち返って、春日山を知るための現地研修2回と、上田城と松代城へ視察研修をさせていただいたが、まだまだ勉強不足。春日山城下は京都に次ぐ都市だったというが、今、町並みの面影は何もない。町並みに関してもう少し勉強したい。勉強不足な段階で提案したので、もっと私たちも理解を深めて、地域協議会、地元の人、行政等と協働で春日山観光を始め、上越市全体の観光を進めていければと思う。5期目以降も地域協議会委員のスキルアップを行いながら、さらに良い提案ができればと考える。

【山田委員】

これまでの歴史が分かるよう、春日山に大きな看板を設置してもらいたい。春日山城跡入口から銅像下までの道路の両側にのぼり旗を設置し、道案内をしてほしいという提案である。

【渡来課長】

訪れた方をどのような形で誘導していくか、サインをどのように設置して歩いていただくか、どのように春日山城を知っていただくか、というところから検討を始めなければいけない。

高速のインターを降りて、春日山に近づいていく雰囲気を感じてもらおうという意味からも、沿道の雰囲気づくりも計画している。いただいた意見、提案を踏まえ、今の計画に盛り込んだものをどの段階でどう実現していくかは、議会で予算が承認される必要があるが、きちんと形にできるように努力していきたい。

【太田会長】

春日山、直江津、高田の観光に力を入れてもらいたいというのが、協議会委員の思い。今まで春日山が行政に注目されてこなかったことは、委員としても残念な思いであった。今回春日山にこれだけ目を向けていただき、また力を入れていただけるという明るい話を聞いたので、これが話だけでなく、少しずつ実現できるよう、地域協議会としてできることはやっていくし、行政としても、できるところは進めてほしい。その辺の連携も大事だと思う。

【吉田義昭委員】

計画は具体的にどのような進め方をするのか。

【渡来課長】

今回、構想のような形で計画をまとめたので、それを具体化するための詳細な検討が必要である。お客様をどのように誘導するかという回遊の計画、来られた方をどのようにもてなすかという施設の計画など、まずはそうした核となる計画を取りまとめていく。

それと並行して、ソフト的な取組も必要で、地域の方に改めて謙信公や春日山城のことを知っていただき、盛り立てていけるような取組も引き続き検討していく。

そのように具体的な計画を立てていき、次の段階では、地域の皆さんと相談しながら、体制を作って進めていくことも考えていきたい。

【太田会長】

他に質問、意見はないか。

(発言無し)

意見が無いようなので、以上で意見書の回答に係る説明は終了となる。

(魅力創造課、文化行政課退席)

次に回答の内容について、委員全員の感想を求める。

【市川委員】

文化財保護法により、春日山城跡に手を加えることができない中で、果たして30何億もの予算をかけて、これだけのものができるのか非常に疑問に思う。春日山神社下の駐車場も使えず、シャトルバスを運行する話になっている。登山道にも柵や休憩施設のスペースを設けるなど、今まで駄目とされてきたものが、なぜここへ来て、通年観光の話が出た途端にできるようになるのか、非常に疑問だ。地元の春日山城跡保存整備促進協議会や様々な団体が言ってきたことが、ここへ来て急に30何億もかけて実施するという話が通じるのか疑問に思う。

様々な施設を造っても、市が出資する第三セクターの経営は厳しいので、維持していくことも考えなければならない。7年間であれもやるこれもやるとなっていて、絵に描いた餅にならなければいいと考えている。

【岡本委員】

文化観光部の作成した計画(案)は、非常によくできている。計画どおりに、ある程度の予算を使って実施できれば、集客はかなり望めると思う。今期の議論はここまでだが、今後具体化していくことを見据えて、どう集客していくかというところは次期委員

で協議を進められれば良いと思う。

【白濱委員】

今回、ちょっと先走ったなと感じたのが、一般車両の進入制限について。これは渋滞時の対策だろうが、地元ではこれが話題になり、かえって悪くなるというのが地元の意見だ。議会でもその話ばかりなのか、議員にも真相を確認した。ある程度の集客があつてこの話が出るのであつて、これを先に持ってきたことは、良くない印象を受けた。

中身については、これを粛々と初期、中期、後期という形で進めていけば、おのずと観光的には上越市も盛り上がってくると思う。

【谷委員】

春日山のことで、これだけの資料が提出され、ここまで話が進んだことは過去にない。今まで、ここまで具体的な形にした市長はいないし、実績も聞いたことがない。心配はあるが、やらなければ何も進まない。今回の資料を理解して、行政だけでも駄目、民間だけでも駄目、両方で協力して進めなければならない。

【藤田委員】

通年観光計画（案）について、本当に絵に描いた餅で終わらせないことが大切だ。志は高く、そしてその中には勢いが必要だろうという、そんな思いで今聞かせていただいた。皆さんが努力されていることに本当に感謝する。

【本多委員】

春日山は史跡なので、基本的には国の許可がなければ何もできない。これだけの金額を春日山に投資する計画なので、できれば最高だ。ぜひ実行できるような形で進んでもらえると嬉しい。

上越市の観光は通過点。日帰り客が多く、夜の観桜会に来ても、宿泊は他市に行ってしまう。この現状を具体的にこれから考えて、これだけ観光にお金をかけるのだから、お客さんを呼んで、上越市にお金を落としてもらいたい。いい施設を造った、でもお客さん来ませんでしたでは、お金かけても意味がない。お客さんが期待して来てくれるような施設ができるのを望む。

【松澤委員】

市の計画（案）はまだ構想段階であり、様々な施設の建設を含めて、これから市場調査をして、時代に合った建物としてほしい。調査したときに必要ないものは負の遺産になるので、建設しないでほしい。何年後、何十年先もいいものとなるようにしてほしい。

【丸山委員】

道路にごみがたくさんあり目につくので綺麗にする、車は歩行者を優先するなどのルールを徹底し、少しでも旅行しやすい、来訪しやすいまちにすべきだと思う。

【山田委員】

今後、具体的になる計画の内容と、実際に行った結果を皆さんに分かるよう周知してもらいたい。

【吉田義昭委員】

今回取り組んだこのテーマと市長が通年観光を打ち出した局面が合い、少し形になってきた。我々の協議会が行ってきたことの成果が見えてきた。

ただ、前期、中期、後期の予算配分が概算で示されているが、それをどのように進めていくのか。地域協議会は、意見書を出して回答もいただいたが、フォローとしてどう見ていけばいいのか。今日は魅力創造課と文化行政課が来ていたが、観光振興課は入らないのか。今後の進め方が見えない。維持管理体制と組織がしっかりしていないと、フォローができない。次期委員がこれをどの程度フォローしていくのか興味がある。

【渡邊委員】

先ほど、市から地元で随時、説明会を開催するとのことだったので、私たちも関心を持っていないかならなと感じた。春日山観光の集客方法を市はどう考えているのか、非常に関心がある。

【渡部委員】

この資料は、我々の意見書に対する返答ではなくて、市議会に対する市長の答弁だ。こちらは結構、具体的なことを提案しているのに対して、回答には具体性があまりなく曖昧で、はぐらかされている。まだ工程が決まっていないが、それをどのように検証、周知していくか。食堂とか物産館が埋蔵文化財センターの側にできると市議会で答弁していて、それを市民が検証していけるかだと思う。

個人的に聞きたかったのは、熊対策だ。熊が出ると言ったら集客が減るので、何か対策が必要になる。7年間で行うことは市議会でも発言したが、これで終わるとは思えない。

【吉田副会長】

今はようやく春日山観光のスタートラインついたところ。進めていくためには、まだ努力が必要。これから具体的なスケジュール、構想が出てくる。その時にコメントできる力量が必要。今回は観光を進めたが、能登半島地震が起こったので、安全・安心につ

いても進めなくてはならない。

【田中副会長】

今回、意見書を提出し、回答をいただいた。それが一つの成果だと思う。

皆さんそれぞれ意見があると思うが、100%叶うことは、実際には有り得ない。どこで自分たちが納得できるか。まだ構想の段階で、細かいことはこれからだと思うので、皆さんもそのように思っていたらきたい。あれが駄目、これが駄目というよりも、あれも入れてもらいたい、これも入れてもらいたいという考えの方がいいと思う。

【太田会長】

通年観光は春日山だけではなく、上越市の主要地域、春日山、高田、直江津ということで挙がっている。やっぱり観光は集客が大事で、県外客だけでなく、進学の都合で県外に出た学生が地元に戻ってきてくれると、観光面でもにぎやかになると思う。

今まで上越市は観光に目を向けていなかったが、この春日区地域協議会が観光に力を入れなきゃいけないと行政を動かすきっかけを作ることができた。この4年間、特に最後の2年は3つの分科会に分かれ、最後の数か月はこの観光一本に絞り意見書のまとめをやってきた。その成果がこの通年観光計画（案）にもかなり盛り込まれているし、資料3の回答でいただいた部分だと思う。

観光で大きな成果を残すことができたし、安全・安心も大きな成果として、防災士の春日支部を作ることもできた。福祉も、いきいきコンサートの自立ということで、3つの分科会で話し合った自主的審議は大きな成果が残せたと思う。次期委員への申し送りとして、つなげて行くようにしなければいけないが、押し付けることはできない。

最後に、これだけの意見書を市に提出し、回答を得ることができた。委員の皆さんのおかげである。感謝する。今後の活動は、事務局からの提案に対して検討する。

【渡邊係長】

今後の活動について提案する。昨今の今頃、皆さんに春日区の地域活性化の方向性を作っていた。そこで「上杉謙信の居城『春日山城』を活かした観光振興や歴史文化・交流事業を創出・発展させ、地域の活性化や生活環境の改善を目指します」と掲げている。事務局としては、意見書に対する市の回答が同じ方向を向いているので、今期の審議は以上をもって終了することを提案する。

委員の中には具体的な事業について、継続審議が必要と考える方もいると思うが、皆さんの任期があとわずかであり、ここで一区切りとさせていただければと思う。

【太田会長】

ただ今の提案について、意見を求める。

【渡部委員】

安全・安心分科会は防災士会春日支部を作ったが、1月1日の地震の対応について何も報告がない。春日区の状況を報告しなくてよいのか。

【渡邊係長】

安全・安心分科会が終わるときに整理をした。春日支部ができた時点で、一つの独立した団体となった。もちろん地域協議会と連携できるのであれば協力は必要だが、活動は当然支部が主体であり、協議会が支部について何かを代弁することはない。質問があれば、春日支部での対応となる。

【吉田副会長】

私が安全・安心分科会にいたら、冬の防災体制に係る議論を考えていた。地震の際、避難所である春日中学校の鍵が空いておらず、灯油も無かったとのこと。約150人が避難した。総合体育館は約370人が避難した。実際に能登では、避難所に人が入り切らずに、車内に避難しているのをニュースで見た。もっと揺れが強かったら、津波が大きかったら、家は壊れるし水没してしまう。5期目の委員が防災について考えるための下地づくりとして、能登半島地震での上越市の現状を危機管理課に確認し、春日区の地域の声を聞き、問題を抽出して、3月、4月に反省会を開催することを提案する。

【渡邊係長】

今期の協議会はこれで終わりではなく、皆さんで最後に感想を言っていただく場として3月に開催を予定している。5期目は誰が委員になって、何をテーマにするのかは、次の委員が決めることなので、前期委員からの意見として申し送りをする。観光や安全・安心は関心が高く、5期目でも話が出ると思うが、その取り扱いは次の委員が決める。

【太田会長】

他に意見はないか。

(発言無し)

意見が無いようなので、以上で、次第3議題「(1) 自主的審議事項」の「春日山城跡の観光振興策について」を終了する。

次に、次第3議題「(2) その他」に入る。

その他、何かあるか。

(発言無し)

意見が無いようなので、次第3 議題「(2) その他」を終了する。

次に、次第4 その他の「(1) 次回開催日の確認」に入る。事務局の説明を求める。

【渡邊係長】

・次回の協議会について説明

— 日程調整 —

・次回（第11回）地域協議会

日時：令和6年3月19日（火）午後6時30分から

会場：上越市市民プラザ 第3会議室（予定）

内容：4年間の振り返り、次期委員への申し送り

・活動報告会

日時：令和6年2月18日（日）午後2時から

会場：上越市市民プラザ 第1会議室（予定）

【太田会長】

ただ今の説明について、質問、意見を求める。

(発言無し)

意見が無いようなので、以上で次第4 その他の「(1) 次回開催日の確認」を終了する。

次に、次第4 その他の「(2) その他」に入る。何かあるか。

【渡部委員】

今回の地震で問題になったことを、この協議会から市へ意見することはできないのか。例えば、7か所の避難所では鍵が開かず、ガラスを割って入ったというが、春日区ではどうだったのか、全然分からない。他にも心配なことが結構あるが、どうすればいいか。

【小林所長】

地域協議会は、自分が課題と思うことを言い合うだけではなく、地域の意見をまとめて、それを市長に伝える機関である。今まで3つのテーマを設定し、それについて委員で協議し、場合によってはアンケートを取って地域の声を集め、それを文書にしたためて意見書として提出するという手順を踏んできた。行動を起こすのであれば、テーマを決めて協議する。そして、今度の活動報告会のように、協議会の意見として発言し、地域の方と協議していく機関である。皆さんが個別にかつ自主的に活動するのは構わないが、地域協議会の場での協議を望むのであれば、担当が説明したスケジュールの中で、

次期委員への申し送り事項として思いを伝えていただきたい。

【渡部委員】

私は防災士なので、ひとり暮らしの高齢者宅を何軒も回った。そうしたら車で逃げる準備をしていた。ここは海拔 7 メートルあるから大丈夫と伝えたが、NHKのアナウンサーが逃げるように連呼していたので、パニックになっていた。そういう問題が起きたときに、地域協議会は何もしなくていいのか分からず話を出した。

【小林所長】

所属する防災士会にその意見を伝え、防災士会で活動していくのが良いのではないかと。

【渡部委員】

分かっているが、他の委員はどうだったか確認したかった。

【市川委員】

防災士会の地震の対応について、話が出ているので伝えさせてほしい。

地震が発生し、2 分後に大津波が来るとの情報で、防災行政無線放送が流れ、テレビでも情報発信をしていた。実際に直江津には、6 メートルぐらいの一番高い津波が来たという話だったが、町内住民の避難行動をまとめきれなかった。アナウンス効果が大きく、自分の命は自分で守るということで、うちの町内は第一次避難所には集まらずに、市の指定避難所の総合体育館と春日中学校に行ってしまった。遠くは金谷山や道の駅あたりまで車で行ったとのことだが、車での避難は非常に危険な行為だ。東日本大震災のときは、車で逃げて渋滞に巻き込まれて津波で亡くなった方がたくさんおられた。

それで今回、市民安全課から各町内会長にアンケートがきている。市の防災士会からも同じようなアンケートがきている。私も提出したが、町内会長会の話によると、皆さん思う存分を書いて提出したということなので、市で今、取りまとめていると思う。その結果を何とかうちの方でも早めに協議する機会を持っていただけないかと依頼している。ただ、今 28 区中 24 区に防災士会があるので、全区が一斉に協議するとなると、非常に無理がある。また、残念なことに今は防災士会には予算がなく、春日区全体に回覧等を出すことが非常に困難な状態である。

今は、防災士会の連絡網を急ぎ作成している。今回、総合体育館と春日中学校が開いていなかったことについて、春日地区の町内会長会に確認したところ、春日野と新光町 3 丁目の町内会がその件を市に報告したそうだ。ただ、ガラスを割って入っていいという話もあったが、そこまでの考えはなかった。私が町内会館を開けていたときに、春日

中学校から帰ってくる方がたくさんいたので、理由を聞いたら開いていないとのこと。その後、私が総合体育館と春日中学校に行った時は開いていた。暖房の灯油が非常に不足していたので皆さんは教室に避難していたし、津波が来ると困るからと3階を使いたいと言っていた。私は大丈夫だと伝えたが、中学校では1階と3階に避難していた。総合体育館は受付もできていて、市の職員3人いたが、それでは足りないということで、すぐ市に電話して応援を呼んだがなかなか来なかった。そして車椅子の方、ペットと一緒に来られた方、そういう方を分けるのを手伝った。マットを敷くのも手伝った。ただ、電話が通じない場面があったので、春日区の防災士には連絡を取っていない。

【本多委員】

町内会長経験者は分かると思うが、避難所は震度5で開けなければならない。教頭先生と近隣の住民の方が鍵を持っているはずなので、開いていないのはおかしい。検証が必要だ。休日や夜間でも必ず入れる段取りをしなければならない。基本的な見直しをしないと混乱が起きる。直江津の知り合いは、津波から逃げるのに車を使い、渋滞に巻き込まれた。津波のとき、車で逃げては駄目なことは、皆さんは知っているはず。よくわきまえていないと同じ混乱が起きる。

【吉田副会長】

春日中学校の話を出したのは、避難所として機能していたかを確認したいため。中に入れない、灯油が無いでは避難所として駄目なので、状況を確認し、春日区の避難所として適正か検討が必要だ。上越文化会館を使うことも議論すべき。地域協議会での情報共有が必要ではないか。

【渡邊係長】

地震発生時の避難所の体制だが、通常指定避難所に3人ずつ市職員がついていて、震度5弱以上で参集する。担当者は毎年必ず、その施設の管理者、学校ならば教頭先生とその地域の町内会長とで打ち合わせをしている。できる限り近くに住んでいる職員が担当になっているが、今回は元日だったので、駆けつけるのに時間を要した職員が多かったのだと思う。鍵は学校が管理していて、普段は開いていないが、災害時に鍵がかかっている中に入れないときは、ガラスを割っていいことになっている。命には代えられない。遠慮なく割って、まず命を守ることを優先してほしい。

この件は、残りの任期で協議して、意見書を提出すべき課題かもしれないが、例えば、今のような疑問に事務局が答えられなければ、担当課に直接確認していただいてよい。

協議ありきでなく、個人的な疑問であれば、まず事務局や市役所に問い合わせで解消し、それを他の委員にも伝えたいのならば、情報提供していただければと思う。

【市川委員】

先ほどの、文化会館は何で避難所にしないのかという質問だが、大災害の時に市外からのボランティアや災害対応職員の集会所として使うため、避難所にはしないようだ。

【吉田義昭委員】

今回の地震の問題点は市でまとめている。町内会で取り組むのはいいが、協議会と言える立場にない。古城小学校でも窓ガラスを割って、臨機応変に対処した。津波に対する訓練をしているので約 200 人が避難できた。協議会としては、地域で訓練する方法などについて協議していけばいい。

【渡部委員】

私は春日区の地域協議員として、周りの人に聞かれたが全く答えられなかった。情報共有が必要ではないか。

【市川委員】

津波のハザードマップの 34 頁を確認すると、春日区には津波の影響が全く想定されていないことが分かる。今回、そのことを市に質問している。海岸沿いの町内会は、赤色や数字で表示されているが、春日区には色が塗られていない。地震イコール津波のアナウンスの影響がどれだけ住民の皆さんにあったのか分かると思う。

【吉田副会長】

私も意見書を提出するつもりは無い。私が地域協議会委員になったのは、この地域の課題を解決・改善していくため。今回の地震で春日山橋まで津波が遡上したというが、もっと大きな津波が来れば、被害が出る可能性はある。避難所に不具合があることを認識して、今後の防災のことを考える一つの契機にしようということ。情報共有が大切。能登半島の佐渡側にまだ動いていない断層があり、マグニチュード 7 クラスの大きな余震があると、さらに短い時間で津波が来ると学者が言っている。そういうときに、どのような対応するのか。それぐらいのレベルの話をしていなければいけない。

【太田会長】

災害対応については、次の機会に協議してもよいか。

(よしの声)

他に何かあるか。

(無しの声)

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

総合政策部 地域政策課 中部まちづくりセンター

TEL : 025-526-1690

E-mail : chubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。